

事業者排出量削減報告書

(宛先) 京都府知事		平成 28 年 7 月 26 日					
報告者の住所(法人にあっては、主たる事務所の所在地) 東京都港区台場2丁目3番3号		報告者の氏名(法人にあっては、名称及び代表者名) サントリービール株式会社 社長 水谷 徹					
主たる業種	ビール類製造業				細分類番号	1 0 2 2	
事業者の区分	<input checked="" type="checkbox"/> 第12条第1項第1号 <input type="checkbox"/> 第12条第1項第2号又は第3号 <input type="checkbox"/> 第12条第1項第4号						
計画期間	平成26年4月から平成29年3月まで						
基本方針	環境への影響を把握、評価し技術的、経済的に可能な範囲で環境目的及び、2020年の中期目標を新たに定めて、環境保全活動のシステムと環境パフォーマンスの継続的な向上を図る。						
計画を推進するための体制	エコワリ-創造部会を中心に、地球温暖化対策の実施計画の策定、進捗管理を行う。						
温室効果ガスの排出の量	温室効果ガスの排出の量	基準年度 (23~25)年度	第1年度 (26)年度	第2年度 (27)年度	第3年度 (28)年度	増減率	
	事業活動に伴う排出の量	28,090.0 トン	28,010.0 トン	29,207.8 トン		1.9 パーセント	
	評価の対象となる排出の量	28,086.1 トン	28,010.0 トン	29,207.8 トン		1.9 パーセント	
	実績に対する自己評価	生産量は若干の減少であったが、生産設備の更新などで構内電力使用量が低下した期間において、コジェネ設備が上手く稼働できなかったため、結果として電力購入量が増加した。					
原単位当たりの温室効果ガス排出量等	事業の用に供する建築物の用途	原単位の指標	基準年度 (25)年度	第1年度 (26)年度	第2年度 (27)年度	第3年度 (28)年度	増減率
	工場	事業活動に伴う排出の量 (生産数量)	86.87	84.68	94.15		2.93 パーセント
		事業活動に伴う排出の量 ()					パーセント
	実績に対する自己評価	温室効果ガス排出量の自己評価でも記載したが、生産量の減少、電力購入量増加及び、排水嫌気処理設備から発生するバイオガスの使用量低下などにより、大幅な悪化となった。					
重点的に実施する取組の実施状況		基準年度 (25)年度	第1年度 (26)年度	第2年度 (27)年度	第3年度 (28)年度	備考	
		117.0 パーセント	123.0 パーセント	122.0 パーセント			
具体的な取組及び措置の内容	(26)年度	高効率蛍光灯導入					
	(27)年度	VRC導入による仕込蒸気使用量削減(平成27年4月以降本格稼働)					
	(28)年度						
通勤における自己の自動車等を使用することを控えさせるために実施した措置	措置の内容	工場最寄の駅より通勤バスを運行					
	上記の措置を実施した結果に対する自己評価	マイカー及びタクシーで通勤する機会が減少した。					
森林の保全及び整備、再生可能エネルギーの利用その他の地球温暖化対策により削減した量	区 分	第1年度 (26)年度	第2年度 (27)年度	第3年度 (28)年度	備考		
	森林の保全及び整備によるもの	0.0 トン	0.0 トン	0.0 トン			
	地域産木材の利用によるもの	0.0 トン	0.0 トン	0.0 トン			
	再生可能エネルギーを利用した電力又は熱の供給によるもの	0.0 トン	0.0 トン	0.0 トン			
	グリーン電力証書等の購入によるもの	0.0 トン	0.0 トン	0.0 トン			
	温室効果ガス排出量の削減又は吸収の量の購入によるもの	0.0 トン	0.0 トン	0.0 トン			
合 計	0.0 トン	0.0 トン	0.0 トン				
地球温暖化対策に資する社会貢献活動	地域、行政などと連携を図り、水源涵養林の保全・育成を目的としたサントリー「天然水の森」活動の一環として、京都ビール工場(京都府長岡京市)の水源にあたるエリアをはじめとして西山の水質保全および緑化資源の確保を積極的に推進した。						
特記事項	第一計画期間の超過削減量を、第二計画期間の温室効果ガス排出量から次のとおり差し引く。						
	超過削減量	第1年度	第2年度	第3年度			
	トン	トン	トン	トン			

注 1 該当する口には、レ印を記入してください。特定事業者以外で自主参加される事業者の方は、レ印の記入は不要です。
 2 「細分類番号」とは、統計法(平成19年法律第53号)第2条第9項に規定する統計基準である日本標準産業分類の細分類番号をいいます。
 3 「基準年度」とは、計画期間の前年度又は計画期間の前の3年度の事業活動に伴う排出の量又は原単位の数値の平均をいいます。
 4 「増減率」とは、基準年度と比較した計画期間の平均の増加又は減少の割合をいいます。
 5 「重点的に実施する取組の実施状況」とは、温室効果ガスの排出の量を削減するために重点的に実施した取組の実施率を地球温暖化対策指針で定める方法により算出して記入し、その算出の根拠となる資料を添付してください。